

# 一般質問

(一般質問は2面・3面・5面にも掲載)



## 薬物依存症の克服に向けた相談窓口の拡充を

創和会 横溝 泰世

一 薬物依存症の対応について

問 薬物依存症にはさまざまな形がある中、精神的不安感から違法薬物へと逃れ、依存症となり、躁鬱から統合失調症という重度化の道へ進むこともある。関係機関やダルクをはじめとする自助団体との連携を図り、コロナ禍等における再犯者や薬物依存症とならない環境づくりに向けて、現状と課題を含めた考えはどうか。また、薬物乱用においては低年齢化しており、学校現場の現状はどうか。

答 薬物依存症対策は、法に基づき主に都道府県が役割を担っており、県では、取り締まりや薬物の恐ろしさを広く訴える「ダメ・ゼッタイ」駅頭キャンペーン実施などの啓発に取り組んでいる。本市では、県の活動を支援するとともに、保健所・自助団体などの関係機関と連携し、情報共有をしているが、本人や家族が認識をもちにくいことや専門相談拠点などの不足から、適切な医療機関の受診へつながらない課題がある。また、学校現場では、未然防止が最大の対応策と考えるため、薬物乱用防止教室や発達段階に応じた支援を充実していきたい。

要望 県に委ねるのではなく、市が責務を負い、薬物依存症にならない環境づくりに向け、取り組んでほしい。また、薬物依存症の家族への偏見や差別の問題もあるため、安心して相談できる窓口を県との連携の下で拡充してほしい。



安心して相談できる窓口の充実を



市民クラブ 八尋 伸二

一 学校教育について

問 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う政府の休業要請で、本市は市立幼・小・中学校を一斉休校とした。教育現場では教員、生徒保護者を問わず学びの継続に苦慮したが、今回、気付いた点は何か。

答 令和2年3月2日から5月まで臨時休校としたため、ICTを活用した学習支援を強化した。特に東中学校ではICTに知見の深い若手教員をリーダーに職員一丸となり、希望する家庭には学校に

## 新たな様式で学びの継続を



東中学校のオンライン教育 “東チューバー”

配備したタブレット端末を貸し出し、オンラインでのホームルームやYouTubeを活用した授業の動画配信を実施した。ICTを活用した新たな学びのスタイルは、コロナ禍の対応のみならず秦野の子どもたちに新たな学びの力やこれからの時代に求められる資質、能力を育むことにつながる。学校との協働により地域教育水準の改善・向上につなげたい。

問 オンライン教育の環境整備に向け、今後必要なのは何か。

答 ICT機器を使うことが目的ではなく、分かりやすい授業とすることが重要である。今後、新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波に備え、全ての小・中学校がオンライン教育を活用できるように、夏以降に研修を実施するほか、個別相談窓口も設け拡充していく。



自民・新政 相原 學

## 次代を担う子供達に希望あふれるまちづくりを

一 秦野サービスエリア(仮称) スマートインターチェンジを生かしたまちづくりについて

問 スマートインターチェンジと市の中心部を結ぶ矢坪沢沿いの新たな道路計画と、矢坪沢の整備の進捗状況はどうか。

答 都市計画道路として整備すべき、関係機関と事前調整を進めている。矢坪沢の整備は、下矢坪橋付近までの約0.9キロメートルの区間を予定し、県の所管課と水路整備に向け調整を行っている。

問 戸川土地地区画整理事業の実現を目指すに当たり、今後、権利者との対応、組合設立に向けての取り組みはどうか。

答 秦野市戸川土地地区画整理準備組合では、全権利者を対象とした戸別訪問を実施するなど、権利者からの意見・要望を確認しながら環境にも配慮した産業系まちづくりとなるよう、準備組合と市が連携して土地利用計画の検討を進



健全な市街地形成と公共の福祉の増強を (写真は、(仮称) 秦野サービスエリア工事現場)

める。要望 進出を希望していた大手企業が、市民団体の強い反対行動により撤退してから1年がたつ。いまだに「区画整理事業反対」と書かれた看板がそのままになっている。まずはこの看板を撤去し、全権利者と支援する秦野市とで合意形成に向けて話し合い、土地地区画整理事業の理念である健全な市街地の形成と公共の福祉の増進が図られるようなまちづくりを、次代を担う子どもたちに残してほしい。

## 新型コロナウイルス感染症 第2波に備えよ

公明党 中村 英仁

一 特別養護老人ホームの申し込みの負担軽減について

問 市内の特別養護老人ホームは辺りな場所に多く立地し申し込みに行くのが大変不便だが、市で一括して入所申し込みを受け付ける

答 ことについての課題はどのようなことか。

答 受付窓口のための人材確保やシステム導入費用、申込書の様式の統一などさまざまな課題があるが、利用者や施設の意見を聞きながら、調査・研究していきたい。

## 二 新型コロナウイルス対策について

問 今後、感染症を拡大させないための対策はどうか。

答 公共施設を中心にサーマルカメラや非接触型体温計による体温チェックの実施など、対策を強化する。また「新しい生活様式」の定着に向け、周知の徹底を図る。

## 三 誰にでもやさしい公園整備について

問 ペコちゃん公園はだのに※インクルーシブ公園の考え方を取り入れることを検討してはどうか。

答 インクルーシブ遊具について情報収集し、調査・研究したい。

要望 先進事例を研究し、市民に優しい公園づくりをしてほしい。



地域医療に十分な支援を



創和会 谷 和雄

## この苦難を乗り越え暮らしやすい秦野とする努力を

一 水を守る施策について

問 水道法が一部改正され、民間へ運営権の譲渡が可能となったが、今後の考えはどうか。また、新型コロナウイルス感染症予防に手洗いが奨励されているが、国の水道水の安全基準はどうか。

答 運営権を民間に譲渡することは考えていない。水道水の安全性は、省令で規定する51項目の水質基準に適合することが必要になる。

## 二 秦野SA(仮称) 関連道路施設整備事業について

問 当該事業を今後どのように生かすのか。また、(仮称) 表丹沢魅力づくり構想の策定後はどうか。

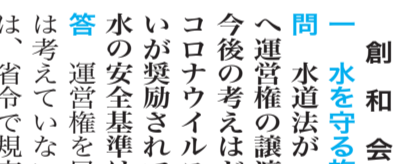
答 利便性や安全性の向上のために道路整備を進めていく。構想の推進により、交流人口や関係人口を生み出し地域活性化につなげる。

## 三 救急出動体制について

問 本市は新東名高速道路の災害

の経営基盤強化のための努力をお願いするとともに、水源を守るための森林管理を徹底してほしい。

答 救急出動体制については、ドクターヘリを活用した搬送体制の早期実現に向け努力してほしい。



ドクターヘリを活用した搬送体制の早期実現を (写真は、朝日航空株式会社提供)